

### 1 自己評価及び第三者評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2870501224		
法人名	社会福祉法人 光朔会		
事業所名	グループホーム オリムピア兵庫		
所在地	兵庫県神戸市兵庫区小松通5丁目1-14		
自己評価作成日	令和5年2月15日	評価結果市町村受理日	令和5年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaignokensaku.jp/28/">http://www.kaignokensaku.jp/28/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和5年2月28日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「認知症になっても、誇りを持ってこれまでどおりの暮らしを安心して続けていただくお手伝い」を理念に掲げ、利用者ひとりひとりの「その人らしさ」を大切に、パーソンセンタードケアを提供している。家庭的な環境の中で、利用者のこれまでの人生をよく知り、グループの持つ力を活用することにより、残された能力や可能性を最大限に引き出すケアを行っている。また、デイサービス、ショートステイ、ヘルパーステーション、居宅介護支援事業所を併設し、住み慣れた地域で継続的にケアを受けることができる、小規模多機能ホームであることも大きな特徴である。地域に開かれたコミュニティカフェ「Cafe Olympia」を併設し内だけではなく外への出店も行っている。地域住民とともに Salon de l'Olympia(コンサート・落語会等)や「オリムピア福祉塾講座」を開催するなど、地域との協働も多い。さらに、スウェーデンをはじめとする国内外からの見学・実習の受け入れや、大阪大学大学院などの研究機関と共同研究を実施するなど、認知症ケアの発展にも力を注いでいる。

**【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

今年度の各ユニット目標を「笑顔を大切に」「笑顔で自分らしい生活を」とし、介護する側・される側ではなく、共に今までのその人らしい生活を継続し、いつも笑い声が聞えるユニットづくりに努めている。食事の楽しみを大切に、家庭料理に加え、季節料理・行事食・手作りおやつ等を企画し、毎食、利用者と一緒に食事作りを行い、本来のグループホームらしい運営が継続されている。感染対策を徹底しながら、散歩・買い物・初詣・花見・季節の花鑑賞ドライブ・ノエビアスタジアムや岬公園でのイベント・100歳体操・花フェスタ・カフェに出かける等、屋外を中心とした種々の外出支援に取り組んでいる。「ヴィッセル神戸」のサポーター活動を通して、利用者に活気・生きがい・地域や外部の人との交流につながる新しい取り組みも行っている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>パンフレットやHPへ掲載し利用者・家族に周知を図っている。新入職員へは理念についての研修から始め理解を深められるよう取り組んでいる。毎年ユニットビジョンや個人でのビジョンを立て理念の実践に繋げている。</p>	<p>「オリンピア兵庫」の理念、理念の実践につながる「3つの約束」を策定し、法人理念の中に地域密着型サービスとしての意義を表明している。新人研修・毎年の理事長研修等を通じて理念の理解を深める機会を継続している。理念・「3つの約束」を各ユニット入り口に掲示するとともに、毎日の朝礼で利用者も参加して読み合わせを行い、共有を図っている。理念をもとに、職員個々の意見を集約して各ユニットで「年間ビジョン」を策定している。年2回、個別の人事考課面談・年度末のユニットカンファレンスでユニットビジョンの実践状況を振り返る機会を設けて次年度のビジョン策定に反映し、理念の実践に向け取り組んでいる。年間ビジョンをもとに毎月ユニット目標を設定し、管理者が法人リーダー会で、実践状況の報告を行い次月の目標設定に反映している。</p>	<p>月間目標についても、ユニット内の掲示やユニットカンファレンスでの振り返りを行ってはどうか。</p>
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>日常的にcafeの営業を続けることや、近隣の商店街から魚やパンを届けていただいたり、幼稚園からは収穫祭として年に一度野菜や花を届けていただくなど可能な限り地域との関係を継続できるよう努めている。2022年からは地域のサッカーチームであるヴィッセル神戸とのイベントも行った。</p>	<p>コロナ禍ではあるが、時期や方法を勘案しながら、散歩・買い物・理美容・通院、いきいき100歳体操や花フェスタ参加、神戸マラソン応援等で、利用者が地域に出かける機会を設けている。オリンピアカフェの営業・近隣の商店からの食材の購入・収穫祭での幼稚園児来訪等、地域との交流を継続している。オリンピア兵庫として「ヴィッセル神戸」のサポーターとしてクラブや地域を利用者と共に支える活動に参加し、スタジアムでの練習風景見学や、ユニット内での観戦等利用者が地域とつながる新しい取り組みも行っている。実習生・介護体験の受け入れ、福祉避難所として市との協定締結・「オリンピア福祉講座」の開催等、地域貢献に継続して取り組んでいる。地域ケア会議のネットワーク機能を活用し、独居高齢者への対応等、地域共通の課題の解決に向けた取り組みも行っている。</p>	

グループホーム オリンピア兵庫

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3			○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議や、福祉講座をオンラインを活用しながら開催した。地域の認知症相談窓口として、電話や相談を受けている他、見学にこられた方々へのアドバイス等を行っている。	/	
4	(3)		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2022年度もコロナウィルスの影響はあったもののリモートなどの活用により2ヶ月に1回の開催を行っている。会議ではご利用者も多く参加し、「月刊オリンピア」という冊子を作成し、各ユニットの日々の生活や行事の様子を紹介、報告し生活の質の向上の為に話し合いをしている。	利用者・家族・あんしんすこやかセンター職員・地域代表(民生委員)・知見者(大学教授)、専門職として行政書士・管理者・ユニットリーダーを構成委員とし、時期に応じて集合・オンラインにより2ヶ月に1回開催している。開催時には、レジュメ・「月刊オリンピア」・講演会等資料を配布している。ZOOM参加の利用者も含め参加者が自己紹介を行い、管理者からの行事報告・各リーダーからのユニット報告・意見交換等を行っている。「月刊オリンピア」に運営推進会議の内容を掲載し、ホームページで議事録を適時に公開している。家族の参加が困難な状況にあるので、月刊オリンピア・会議資料とともに、意見等を記載する返信用紙を同封して全家族・構成委員に郵送し、意見等があれば次回議事録に反映している。	家族の参加が困難な状況であるため、意見・要望の返信用紙を同封している。コロナ禍終息後は、家族の参加が得られるよう働きかけや工夫されることを期待します。
5	(4)		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市との協力で認知症サポーターとしてかわらせて頂いたり、ケアネットへの参加をし連携をとっている。特にコロナ禍における情報の共有、相談を密に行っている。	運営推進会議・地域ケア会議参加等を通じて、あんしんすこやかセンターと連携がある。管理者が認知症サポーター養成講座キャラバンメイト活動や、「ほっとかへんネット」「ケアネット」等地域ネットワークに参加し、また、施設として福祉避難所の協定締結を行い、市や区と連携がある。新型コロナウイルス関連の情報提供・相談に対する回答・助言等を、事業所内の感染予防対策に反映している。	

グループホーム オリンピア兵庫

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践                      代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>定期的な身体拘束に関する研修を実施し、職員に広く周知している。外に出たいとの希望があればその都度、職員同行のもと対応し閉塞感を感じないように努めている。居室の施錠については本人の意志に任せており、玄関の施錠を含めて正しい知識を持って身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>「グループホームにおける身体拘束対策に関する指針」を整備し、身体拘束をしないケアを実践している。館長・管理者・各ユニットのリーダー・計画作成担当者を委員として、3ヶ月に1回「身体拘束防止委員会」を開催し、拘束事例なしの確認・適正化に向けた検討等を行い、議事録の配布により、委員会内容の職員への周知を図っている。日々のケアやユニットカンファレンスの中でも、適正化に向けた意識付けを行っている。館長による拘束・虐待防止研修、管理者がオンライン受講した外部研修の資料回覧による伝達研修、各ユニットのカンファレンスでの身体拘束・虐待防止を議題に採り入れた研修（スピーチロック・BPSDの理解等）を実施している。令和5年3月に全体研修の中のテーマ別研修を計画している。玄関の施錠は行わず、ユニット間の行き来も自由にでき、ベランダ・屋上も活用し、閉塞感のない暮らしを支援している。</p>	
7	(6)	<p>○虐待の防止の徹底                      管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>毎月、職員と個別面談を行い相談しやすい関係づくりに努め、職員のストレスがケアに影響しないように取り組んでいる。カンファレンスでケアが不適切ではないかと感じることを職員同士で話し合い、常に意識できるように努めている。また、内部研修を行い、虐待の定義などについて学ぶ機会を設けている。</p>	<p>上記身体拘束適正化と同様の方法で、虐待防止についても研修を実施している。カンファレンスで不適切ケアにつながる対応がないかを確認するとともに、虐待防止研修でグループワークを行ったり、「不適切ケアチェックシート」「自己点検チェックシート」を研修資料として活用する等、職員の意識向上を図っている。リーダーによる毎月の個別面談、管理者による人事考課面談、法人としてストレスチェックの実施、施設内・法人内の相談窓口の整備等、職員のストレスや不安がケアに影響しないように取り組んでいる。</p>	

グループホーム オリンピア兵庫

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方も多くお受けしています。実際の成年後見人とのやり取りでは、定期的な状況報告、相談をしご本人に対して一緒に考え、より良いケアに繋げている。また、必要と思われる利用者については、相談の上、関係機関への橋渡しができる支援体制を構築している。	権利擁護に関する制度についての研修は、全体研修の中で実施し、伝達研修により職員の理解を図っている。研修(全般)については、法人内・施設内の年間研修計画書に実施状況欄を設けた「研修計画・実施状況一覧表」を作成し、計画に沿った実施を明確にしている。現在、成年後見制度を利用している利用者があり、後見人への書類の提供・状況報告等、協力支援を行っている。今後も、制度利用の必要性や家族からの相談があれば、法人本部の事務局長が行政書士であり、相談対応できる体制がある。	研修について、研修計画に沿った実施状況が明確になるよう工夫しているが、更に、研修参加者・伝達方法等が明確になるよう工夫をしようか。また、年間研修計画に、当初の計画以外に実施した研修も追記しようか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の際は十分に理解、納得頂ける様説明を行っている。改定等の際は説明の上、同意書を頂き一方的なものにならない様、確認を行っている。リモートでの見学等、入居前からの相談も密にさせて頂く事でご本人、ご家族にとって安心した形でご入居頂ける様努めている。	入居希望があれば、リモート見学・ベランダからのガラス越し見学等、見学方法を工夫して対応している。状況に応じて自宅や病院を訪問し、パンフレット・料金表をもとに、生活環境やサービス内容についてわかりやすい事前説明に努めている。契約時には、管理者が冊子「運営規定・重要事項説明書・契約書・指針・同意書等」の内容説明を行い、書面で同意を得ている。利用者・家族の要望に沿って、医療や重度化対応についてのバックアップ体制等を特に詳細に説明し、利用者・家族の不安の軽減に努めている。契約内容に変更が生じた場合には、変更部分の文書を作成し、文書で同意を得ている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2年の間コロナ過によりご家族懇談会が開催できず、直接の交流が制限されている。オンラインのリモート面会の活用を行い、定期的に電話連絡にて近況を伝え、毎月の利用者個々の体調面・生活面を報告し意見や要望の把握に努めている。また月刊誌や写真を送らせて頂く事で、ご本人の様子をお知らせしている。	通常は、家族の面会が多く、また、家族懇談会、家族を招待するイベントや外出行事等により、家族の意見・要望を把握する様々な機会を設けている。現在は、ラインでのビデオ通話を活用して家族との面会の機会を設け、ラインの活用が困難な家族には、主に電話や手紙で利用者の様子を報告し、家族の意見・要望の把握に努めている。「月刊オリンピア兵庫」の発行、別途に写真も送付し様子を伝えている。把握した内容は「苦情相談受付書」や詳細は申し送りノートで共有しケアや生活支援に反映している。運営推進会議に複数名の利用者のZOOM参加があり、意見・要望を外部者に表せる機会を設けている。	

グループホーム オリμπピア兵庫

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年度末の考課の際など、館長、管理者と個々の面談の機会を設けている。また、ユニットでは月に一度、個別に職員の意見・提案を聴く機会を設けており、日々スタッフの様子に気を配り、その時々で必要に応じた声掛けを行っている。	ユニットカンファレンスを月1回開催し、利用者担当の職員が利用者の状況・ケアプランの実施状況をシートにまとめて報告し、意見交換している。業務や行事についても検討している。カンファレンス記録をユニット職員に回覧し共有を図っている。日々の検討事項は、ユニットリーダーが集約し、申し送りノートの回覧により共有しながら、ケアの変更や業務改善につなげている。定期的に年2回、人事考課の管理者・館長との面談を通じて、個別に意見を伝える機会を設けている。日常的にも、管理者が意見・提案等を聴き取り、内容に応じて適宜対応している。月に1回施設内でリーダー会議を行い、各事業所の職員の意見を共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を導入し、年度初めに職員個々が毎年目標を設定し、年度末に自己評価および上司による評価を実施することによって、向上心をもって働ける環境を整備している。スタッフのその時々々の要望等を確認し、反映に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職後の新人研修や現場に入ってからからのOJTを行っている。また内、外部の研修にスタッフが参加したり、外部講師を招いての研修を行っている。介護未経験のスタッフから、リーダー以上を対象とした研修まで幅広く実施し、スタッフのスキルアップに努めている。また、オリμπピア兵庫で初任者研修も開講し、働きながらの受講にも支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オンラインを活用しながら他施設同業者との交流を継続している。SNSを主として同業種間のグループ等を作り、情報交換をしたり区内でのグループホーム連絡会やケアネットへの参加、法人内の施設間を行き来した交流により、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接時から関係づくりを意識し、不安軽減の為ご本人との対話を心掛けている。初期の段階でのご本人の要望や、不安を伺いケアプランに反映している。また、環境作りも気を配り安心して生活をスタート出来るよう努めています。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前からご家族の不安や要望を伺い、把握しサービス導入段階で安心し、納得した状態でサービスを開始して頂ける様努めています。また、導入初期はご本人のご様子をこまめにご家族にお伝えし、安心、信頼に繋がるよう支援している。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	直接的な要望だけでなく、会話の中から隠れた希望や望みを読み取るようにし、必要とされている支援と一緒に検討し、選択をして頂いている。サービスの希望を頂いた段階で面談の機会をもうけご家族と、ご本人の状況の把握に努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入居者様が「介護する側、される側」の関係になることなく、共に生活をするもの同士として個々を尊重させて頂いています。個々の残存能力を大切に、それぞれの生活を大切にして頂いています。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族とのつながりを大切にする意味でも、ご家族との連携をとらせて頂いています。一方向からではなく共にご本人を支え、ご本人の生活がよりよくなるようにご家族との関係作りをさせて頂いています。定期的なご連絡をさせて頂き、ご本人のケアに対して共に結論付けていくようにしています。		

グループホーム オリμπピア兵庫

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居した際に個人ノートを作成し、生活歴から個々の関係情報の把握をしている。コロナ禍により面会や外出が困難な状況ではあるが、リモート面会を活用し、感染予防を徹底しながら馴染みの関係継続を支援している。	入居時家族記入の「生活歴シート」や、面談時の「個人ノート」等から馴染みの人や場所についての情報を把握し共有を図っている。通常は、家族・友人・知人の来訪が多く、施設内の行事や交流で、馴染みの関係継続を支援していた。コロナ禍のため、家族とはオンラインでのビデオ面会等を工夫し、遠方の家族との面会機会を増やす等の取り組みも行っている。また、時期に応じて、買い物・理美容・通院等を行う等、可能な範囲で馴染みの場所との関係継続の支援に努めている。携帯電話の活用・手紙の取次ぎ支援での関係継続にも努めている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関わりを大切にしている。ご利用者個々の性格の把握に努め、会話や共同作業などを自然と行える環境作りをしている。その時々の人間関係を考えながら、座席を変えて頂いたり、スタッフも一緒に入って生活をする事で孤立しする方のないよう、場の把握も行っている。		
22	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族との関係に関してはサービス中だけの関係ではなく、サービス終了後も継続をしている。ご家族をイベントやCaféに招いたり、定期的に便りを頂けるご家族もいる。オリμπピアのサポーターズクラブに入って頂いている方もおり、相談も気軽に頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人からの要望などは些細なことでも記録し共有することで実現へと繋げている。意思疎通が困難な方については表情や反応からお気持ちを汲み取ったり、発される言葉などを拾い会話に取り入れている。また、家族からの情報を参考にすることで思い、意思の把握に努めている。	利用者個々の思いや暮らし方の希望について、入居時の「生活歴シート」・入居後1週程度までの記録「個人ノート」等で、入居後は「介護記録」「苦情相談受付書」「申し送りノート」で情報共有し、介護計画や利用者支援に反映できるよう取り組んでいる。把握が困難な利用者については、生活歴を参考にしたり、表情や反応から汲み取ったり、家族の意見や情報を活用する等、利用者が希望する暮らしを支援できるよう取り組んでいる。	生活歴・生活習慣・趣味・嗜好等を記録し、新しく把握した情報を追記し、人物像の共有と個別支援に活用できる書式の工夫が望まれます。



グループホーム オリンピア兵庫

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者本人がスムーズな入居に繋がるよう、入居に至るまでの個々の暮らしの把握に努めている。入居前からの聞き取りに加え、入居時に生活歴シートなどを活用し、本人またはご家族から知り得た情報を個人ノートに記録し共有している。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中や夜間のご様子、また些細な言動なども日誌へと記録している。変化や新たに得た情報などは申し送りノートにて共有し、介護計画の見直しへと繋げている。ケアの変更が必要な場合は速やかに対応できるよう努めている。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者本人の希望や目標を第一に、ご家族の希望や職員の気づきを介護計画に反映させている。毎月のユニットカンファレンスにてモニタリングを実施し、現状に即した介護計画を作成、実践している。	家族記入の「生活歴シート」、入居時に作成する「個人ノート」をもとに初回の介護計画を作成している。ユニットカンファレンスで個々の介護計画内容に沿ってカンファレンスを実施し、職員の理解・周知を図っている。日々のサービス実施状況はタブレットの「介護記録」「チェック表」に記録している。介護計画に基づいた実施状況を記録するよう職員に周知を図り、リーダーが確認している。毎月のユニットカンファレンスで、担当利用者について1ヶ月の状況報告を行い、共有・検討を行っている。必要時には随時、定期的には短期目標に合わせて3ヶ月毎に、介護計画の見直しを行っている。見直し時は、「サービス計画評価表」でモニタリング・評価を、「アセスメントシート」で再アセスメントを実施し、ユニットカンファレンスを実施している。議事録に「ケアプラン更新月」と記載し、見直しのためのカンファレンスであることを位置付けている。	介護計画見直しの際は、ユニットカンファレンス議事録に、利用者・家族の意向、主治医等関係者の意見も記載することが望まれます。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録ではご利用者様の“今”に目を向ける事を大切にしている。ご本人との会話や、行動、ご本人の発した言葉を中心に記録を付けている。記録を職員間で共有し介護計画の見直しに活かしている。		

グループホーム オリμπア兵庫

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	オリμπア兵庫として、併設しているデイサービス・ショートステイ・ホームヘルプとを組み合わせ、小規模多機能ケアに取り組み臨機応変に相談を受けている。利用者ひとりひとりの状況やニーズに応じた、柔軟なサービス提供に取り組んでいる。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日常的に地域のお店への買い物や、美容院、病院などを利用し地域との関わりを支援している。イベント開催時には参加をし、関係作りに努めている。2022年度からは地域のサッカーチームであるヴィッセル神戸との活動も行わせて頂いている。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診や医療面に関しては、ご本人の希望をもとに選定して頂いている。入居前からのかかりつけ医の継続、オリμπア兵庫としても3名のかかりつけ医がいる為、ご本人、ご家族の納得した形で医師を選択頂いている。ご利用者にとって安心した形で必要な医療の継続をして頂いている。	契約時に医療体制について説明し、入居前のかかりつけ医を「生活歴シート」に記録し、入居前のかかりつけ医を継続する受診も支援している。協力医療機関の3名(選択制)のかかりつけ医(内科・外科)による訪問診療と、希望時の歯科往診を受けられる体制がある。通院時は基本的には職員が同行し、直接状況を説明し、受診結果を把握している。往診・通院について「申し送りノート」で伝え、詳細は「通院記録」「往診記録」で共有し、家族には電話で報告している。施設の常勤看護師が、日頃の相談対応・健康管理を行い、医師と連携を図っている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護師が常駐しており、いつでも相談を出きる体制をとっている。ご利用者の日々の小さな変化から看護師とは相談をし、情報の共有をしている。ご利用者の医療面での早期対応、看取りや入院者の早期退院の受け入れに繋がっている。コロナ禍での対応もこまめな相談、指示のもと感染予防に繋げている。		

グループホーム オリμπピア兵庫

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に病院へのあいさつ回りなどを行い、地域連携室との関係作りを行っている。入院時には情報提供を行い、病院に繋げるように努め、入院中も病院との情報共有をし早期の退院に繋がる様にしていく。また、可能な限り病院と家族とのカンファレンスにも出させて頂く事で関係構築をしている。	近隣病院への入院が多く、日常的に地域医療連携室と関係づくりを行っている。通常の入院時は「介護サマリー」で、緊急入院時は神戸市書式の「入院連携シート」で、情報提供している。地域医療連携室と、経過や退院に向けての支援について随時情報交換し、早期退院に向け支援している。退院前カンファレンス実施時は参加して情報収集を行い、実施されない時は家族や地域医療連携室から情報を把握している。入院時の経過は、ユニットカンファレンス・「申し送りノート」で共有し、退院後の支援方法を検討している。介護計画の見直しは、退院後の状態に応じて行っている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約の段階から重度化に関しての指針について説明をさせて頂いている。ご本人に変化が見られた際は勿論のこと、初期からの希望の変化を段階的に確認している。看取りの際にはご本人の希望を第一に医師、ご本人、ご家族、管理者、スタッフでのカンファレンスの場を設けチームとして看取りに取り組んでいる。	重度化・終末期に向けた事業所の方針を、契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」に沿って説明し同意を得ている。体調変化が見られた時は、日頃からユニットリーダーが迅速に家族に報告し連携を図っている。この1年、重度化・終末期対応事例はないが、事例があれば、重度化傾向を迎えた段階で主治医から状況説明を受け、現状の共有と家族の意向確認を行い、カンファレンス記録に記録している。看取り希望があれば、ユニットカンファレンスを実施し、看取りに向けた介護計画を作成し、家族・主治医・看護師・介護職員等が連携して支援に取り組んでいる。研修は、事例がある時にユニットカンファレンスの中で実施している。看取り後は、振り返りのカンファレンスを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時、職員が落ち着いて対応できるよう対応マニュアルや救急対応の問い合わせ先などを掲示している。急変時対応の希望を事前にご家族にも確認するようにしている。		

グループホーム オリンピア兵庫

自己 者	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	設備会社、消防署、電気会社との協力のもと、年に2回、昼間・夜間の火災を想定した消防訓練を実施している。毎回、対応スタッフを帰る事でまんべんなくスタッフが方法を身につけられるようにしている。また、今年から福祉避難所として、有事の受け入れを行う。	令和4年度は、2月・8月に施設合同で消火・通報・避難誘導の総合訓練を利用者も参加して実施し、2月は夜間想定での避難誘導訓練も行っている。訓練には、職員が偏りなく参加できるようシフト調整を行い、訓練前に「シナリオ」、訓練後は館長の総評等「自衛消防訓練評価」を作成し、訓練内容・評価を職員に回覧周知している。施設合同で非常食料を施設の厨房に、備品等は屋上倉庫に保管し、管理栄養士が備蓄担当者として管理している。非常災害時の福祉避難所として市と協定を締結し、地域ケア会議・「ほっとかへんネット」「ケアネット」等ネットワークへの参加を通じて、地域との協力体制を確認している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修で「オリンピア兵庫の理念」「オリンピア兵庫の3つの約束」とその意味を確認し、ご利用者の尊厳を意識したケアを実践している。また、不適切ケアチェックシートを活用し、利用者の尊厳やプライバシーを損ねない言葉かけや対応について職員に対し意識向上を図っている。	「理念」「3つの約束」を毎朝利用者と共に読み合わせを行い、「敬語での会話」「尊厳の保持」等、利用者尊重やプライバシー確保について、意識向上に努めている。新人研修・全体研修・ユニットカンファレンスの中で、コンプライアンス・プライバシー確保等について学ぶ機会を設けている。ユニットカンファレンスでケアや支援について振り返る時は理念に立ち戻り、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について共有と実践に取り組んでいる。また、不適切ケアチェックシートを活用し、利用者の尊厳やプライバシーを損ねない言葉かけや対応について職員の意識向上を図っている。写真・映像使用については、入居時に、同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	パーソンセンタードケアの考えのもと、利用者に自分で決定してもらえよう選択肢を交えた質問をすることで自己決定できるよう働きかけている。意思表示の難しい方に関しても、ご本人本位のケアを考えている。		

グループホーム オリμπピア兵庫

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	パーソンセンタードケアの考えのもと、施設の側の時間の流れではなく、一人ひとりのペースを大切にしている。生活習慣の把握に努め、過ごし方の希望、起床や就寝の時間なども個々に沿って配慮している。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理美容の利用を取り入れ本人の希望に沿った髪型にカットしている。化粧品や、洋服の買い物にでかけたり、一緒に考えさせて頂いている。意思疎通が難しい方には洋服を何種類かをお出し着たいものを一緒に選び、更衣している。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の食べたいものをリサーチし献立に取り入れたり、旬の食材を使った食事やおやつを利用者と職員と一緒に作っている。必要があれば人によってメニューや形態を変えて提供している。また準備や片付けまで一緒に行い、これまでの生活に近い形を継続して頂ける様支援している。定期的なパーティなども行い出前も取り入れている。	日常の会話の中での利用者の嗜好等を把握しながら、献立担当者が両ユニットの献立表を作成している。法人内の管理栄養士から栄養バランス等について助言を得て献立等に反映している。地域の商店に発注した食材を使い、各ユニットで手作りの食事を提供している。食事形態への対応は、管理栄養士とユニットが連携して行っている。可能な利用者は、野菜のカット・準備・盛り付け・後片付け等に参加できるよう支援している。クリスマス・ひな祭り等行事食も献立に採り入れ、おはぎ・バレンタインデーのチョコレートクッキー・ハロウィンのカボチャケーキ等季節感を採り入れた手作りおやつや、個別誕生会で手作りケーキを楽しむ機会も設けている。イベント時にデリバリーを活用したり、おせち料理はホテルに発注する等、変化を楽しむ機会を設けている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは栄養士の管理のもと栄養バランスを考慮して作成している。お一人おひとりの食事量や水分量は電子記録することでスタッフ間で共有し、一日を通じて不足分は補えるよう支援している。		

グループホーム オリμπピア兵庫

自己 者	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアへの促しをしたり、必要に応じて歯科への通院を行い、医師からのアドバイスをいただきお一人おひとりの口腔状態に沿ったケアをしている。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握、個々に沿ってトイレ誘導を行い、その方にあった支援を行っている。また、介助が必要な方もできる限りトイレで排泄できるようにトイレへと誘導を行い、自立にむけた支援を行っている。	排泄の自立度に個人差が大きい現状があるが、タブレットの「チェック表」で排泄状況・排泄パターンを把握し、必要に応じて二人介助を行い、日中はトイレでの排泄を基本に自立に向けた支援を行っている。夜間は安眠にも配慮し、利用者個々に応じた排泄用品を用いて支援している。検討事項があれば、定期や随時のカンファレンスで検討し、検討内容は「申し送りノート」「ユニットカンファレンス議事録」で共有しながら、現状に適した介助方法や排泄用品の使用につなげている。プライバシーへの配慮について、研修や不適切ケアチェックシート等に採り入れ周知している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お一人おひとりの排便状況を把握し、十分な水分量を摂取いただけるよう促したり、歩行や運動量を増やせるよう働きかけをして予防に努めている。また、かかりつけ医と相談、指示のもと下剤の服薬や浣腸も行いご本人の苦痛の緩和を行っている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は個々の希望を中心に入ってもらっている。入浴が嫌いな方や、体調が悪い方に関しても、清拭や足浴などで清潔を守っている。肌の弱い方へは専用のボディソープを使用するなど肌を傷つけないよう工夫している。また入浴剤でリラックスできる環境を作ったり、使用していたシャンプー等を継続して使っていただくなど個々に沿った支援をしている。	週2回の入浴を基本とし、回数・時間帯・曜日等、利用者の生活習慣・体調・意向に沿って柔軟に対応し、タブレットの「入浴チェック表」で入浴状況を把握している。個浴の一般浴槽、更湯での入浴を基本としているが、個々の状況に応じて、清拭・シャワー浴・足浴等で対応し、必要時は、デイサービスの機械浴を活用して、安全に清潔保持ができるよう支援している。入浴拒否があった時には無理強いをせず日時の変更等で、また、希望があれば同性介助で対応している。好みのシャンプー・入浴剤、ゆず湯等を採り入れ、入浴が楽しめるよう工夫している。	

グループホーム オリンピア兵庫

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間などの設定をすることなく、お一人おひとりのペースで休んで頂いている。自宅で過ごされている環境に近い状態を作ったり、空調や照明も状況に応じて調整し安心して休めるよう支援している。		
47			○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬リストの共有にて目的や用法、用量を職員が理解をしている。錠剤の服用が難しい方へは医師に相談した上で、粉末にしたものを処方いただくなど、個々に沿った対応をしている。新たな薬に変わる際も、確認期間を設定し本人への適正を医師と判断するようにしている。		
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全体での催し物を始め、日常生活の中で個々の特技を生かした活動をお勧めしている。また、家事などでも一緒に行う中で役割を持って頂き、刺激のある生活に繋げている。		
49	(22)		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍でこれまで行っていた旅行や、外食は行っていないが、感染対策を徹底し、ドライブや近隣のお店への買い物、公園まで散歩に出かけている。本人の希望に沿ってカフェなどに出向き、少しでも気分転換できるよう支援している。	通常は、遠足・一日旅行等、外出機会を多く企画し外出支援を行っている。コロナ禍ではあるが、時期を勘案し、感染対策を徹底しながら、近隣公園への散歩・買い物・初詣・花見・季節の花鑑賞ドライブ等、可能な範囲で屋外を中心とした外出支援に取り組んでいる。また、ノエビアスタジアムや岬公園でのイベント、100歳体操・花フェスタ・カフェに出かける等、利用者の身体状況や希望に応じた外出を工夫している。屋上での散歩・外気浴・花火見物、ベランダでの歩行練習等、戸外で気分転換が図れるよう工夫している。	

グループホーム オリンピア兵庫

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理はご本人とご家族との相談のもと所持の方法を決めている。お金を持って頂く大切さを理解の上、支払い時に自身で支払って頂いたり、買い物時に適度なお金を持って頂くことでの安心感をもって買い物を楽しんで頂ける様支援させて頂いている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お好きな時に電話をして頂き、リモートにての会話も多くご利用頂いている。携帯電話を持参し好きな時に連絡を取られたり、手紙にて家族や知人とのやり取りを継続もしている。2か月に一度は月刊誌を送付し、写真にてご本人の様子をお伝えしている。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気・消毒を徹底しており、テーブルにはパーテーションを設置し感染防止に取り組んでいる。ご利用者の手作りの作品や観葉植物を置いたり、季節を感じる事ができる飾り付けをして温もりのある環境を作っている。また、テレビの音響・音量に配慮し安全に居心地よく過ごせるよう工夫している。	ゆったりと広く開放感があり、ユニット間は廊下で繋がっており、利用者は自由に行き来できる生活空間である。換気・消毒を徹底し、テーブルにはパーテーションを設置し感染防止に取り組んでいる。大きなテーブル席・大型テレビ前のソファ・畳スペース・一人用テーブル席等を配置し、配席にも配慮しながら利用者が思い思いに居心地よく過ごせる環境を整備している。生花・ひな壇・桜花の写真等、利用者が生活の中で季節が感じられるよう工夫している。観葉植物・利用者手づくりの壁飾り等を設置し、また、可能な利用者には、掃除機の使用・洗濯たたみ・調理準備や片付け・繕い物等が行えるよう支援し、生活感を取り入れている。ベランダで歩行練習を日課とし、屋上で外気浴・花火見物・食事やお茶を楽しむ等、共用空間として活用している。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置はご利用者の性格や相性などを考慮し、その都度変更できるようにしている。ソファ、小さなテーブルを何か所かに分けて配置し、その時々で1人で過ごしたい時は離れて過ごせるような居場所作りをしている。		



グループホーム オリμπピア兵庫

自己 者	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れた家具、馴染みのある物や思い出のある物を持参していただいたり、ご家族との写真を飾っていただくことで自宅のように居心地良く過ごせるように工夫している。	居室には、基本的にクローゼット・洗面台・ベッドが設置されている。トイレが設置されている居室が2室ある。居室内でも棚やテーブルの角にはクッション材を取り付けるなど安全に生活ができるよう配慮している。テレビ・テーブル・タンス・冷蔵庫等使い慣れた家具や、観葉植物・人形・ぬいぐるみ・編み物作品・ぬり絵等趣味の物や、家族との写真等今までの生活で大切にしていたものが持ち込まれ、その人らしさが感じられ居心地良く過ごせる環境づくりが行われている。可能な範囲で居室の掃除や衣替えを職員と一緒にを行う等、安全に自立した生活が継続できるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室に手すりを設置しており、歩行不安定な入居者の方には、職員が見守りを行っている。居室内でも棚やテーブルの角にはクッション材を取り付けるなど安全に生活ができるよう工夫しながら、自身での行動を促すような配置などを考えている。		